

家庭科の男女共修をすすめる会

# 会報

'88 夏

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11  
婦選会館内

〒151

振替 東京九一―一九一八九一

発行 一九八八年七月二日

## 一九八八年の運動について

一九八八年度総会は四月十六日に開かれ、八七年度の決算と総括の承認のあと、八八年度の運動方針と世話人を決定しました。

今年の運動の基本方針は、共修家庭科が女子差別撤廃条約にのっとった教科として実現し、現場に根づくようにすることです。

具体的には、年度前半と後半にそれぞれ次のような活動を重点的にを行います。

前半の活動の中心となるのは、現場を対象とした新しいパンフレットと、男女平等の問題に関心のある人びとを対象としたリーフレットをつくること、それに、文部省に公開質問状を出すことです。そのために首都圏の世話人は三つのグループに分れて作業をすすめることにしましたが、リーフレットはすでに

完成、パンフレットも間もなくでき上ります。公開質問状グループは、文部省あての質問状をつくるのに先立って、東京都教育庁の方針を聞き、国会にも働きかける予定です。（各グループからの報告は13・14ページ）

年度後半には大きなイベントを行います。その内容、日どりについては検討中ですが、やや忘れられかけているように見える共修問題をもう一度一般の人びとに強く印象づけるために、他団体と共催で今までの集会とは違ったかたちの催しをやるという考え方と、現場の教員を中心に、全国的な情報交換ができるような交流集会にしたいという二つの考え方があります。いずれにしても一つの大きなイベントに力を集中することにして、それ

## もくじ

一九八八年の運動について	(1)
一九八八年度総会報告	(2)
葦山高校の入学差別に抗議	(6)
都立高校の募集定員を男女平等に	(7)
埼玉県の調査	(8)
東京都議会厚生文教委員会から	(8)
生活科の内容	(9)
高校長協会家庭部会報より	(9)
連絡会報告	(10)
いろいろな集会のおしらせ	(11)
家教連 母親大会 Weの会	
日教組 女性民教審	
リーフを活用	(12)
世話人会報告	(12)
グループからの報告	
公開質問状グループ	(13)
パンフレットグループ	(14)
リーフレットグループ	(14)

までは集会はお休みにします。集まる機会は少くなりますが、どうぞ情報は事務局または世話人あてにお寄せください。イベントについても、どうぞご意見をおしらせください。

# 一九八八年度総会報告

婦選会館で

司会 石川 由紀  
記録 梶谷 典子

## '87年度総括から

報告 榎本 稲子

十二月二十四日、教課審答申で中学、高校の家庭科の男女共修が国の制度として確定した。しかし、実質的な男女共修にするためには多くの問題点があり、今後運動を続けて行く必要がある。

'87年度の運動方針は「中学・高校における男女共修必修の方針を受け、会員は力を結集して、男女共修家庭科の教育課程を実現する運動をすすめる」でした。問題はまだ残されているとはいえ、目標は達成されたと言えます。

答申に向けての具体的な行動としては、四月四日の総会、九・二六集会、十二月十九日の「審議とまとめ」を検討する会での討議や情報交換、要望書の提出（十月一日）などがあります。

更に次の段階として「学習指導要領に私たちの意見を盛りこませる」（'87年度方針1の

②）ための行動として、'87年末には声明と答申についての説明文を出し、一月には要望書を文部省に提出、二月に文部省職業教育課長の訪問、それに二・二〇集会を開いています。（これらの具体的内容や、他団体、マスコミへの働きかけについては、これまでの会報を参照して下さい。）

方針にかかげながら実行しなかったのは：

「会」の運動のまとめをする時機になっていないと考えて、出版のための準備を中止した。

授業参観は、現場の受け入れ体制がととのわず、行えなかった。

そして残った大きな問題は……

会員の拡大は、中学・高校での家庭科の男女共修が一応国の制度として決定したため、山をこしたことで、現在減っている。内容的に問題がたくさん残っている。

るので新しい運動の方向を考える時に来ている。

報告はこうにしくくられました。

（まとめ 梶谷典子）

## '88年度世話人

提案 石川 由紀

青山 和世	東京都	佐藤美枝子	長野県
芦谷 薫	東京都	立山ちづ子	熊本県
石川 由紀	東京都	丹原 恒則	岡山県
磯部 幸江	東京都	中嶋 里美	埼玉県
榎本 稲子	埼玉県	中西 芳子	東京都
大井 良枝	島根県	羽賀 紀子	埼玉県
小野塚サチ子	新潟県	橋本登志子	岐阜県
香川 敦子	兵庫県	馬場 洋子	東京都
梶谷 典子	東京都	半田たつ子	東京都
喜久川幸子	沖縄県	樋口 恵子	東京都
木下 雅子	石川県	丸山 新男	東京都
木村 温美	福井県	持田 ナミ	神奈川県
駒野 陽子	東京都	本橋 靖子	鳥取県
斎藤 節子	北海道	和田 典子	東京都
佐藤 慶子	山形県		

（二十九名）

## '88年度運動方針

提案 磯部 幸江

一九八七年十二月二十四日、教育課程審議会の答申がでて、中学・高校での家庭科の男女共修が、国の制度として決定しました。これからは学習指導要領の指導内容が明らかになっています。それは、単なる物作りに終始したり、道徳的なしつけ教育であったり、家庭科とは程遠い内容の情報処理であったり、私達の考える家庭科とは別のものになってしまう危険があります。

教育全般の反動的な動きをきびしく警戒しながら、女子差別撤廃条約の精神にのっとり家庭科にするために、今こそ運動を進めていきましょう。

### ◎基本方針

#### ◎具体的な行動

1. 国や自治体にむけて
2. 文部省に働きかける。
3. 国会に働きかける。

3. 各地で地方自治体に働きかける。
4. 各地で地方議会に働きかける。
- ・働きかける内容として次の諸点を重視する。  
ア、新しい学習指導要領の内容編成に私たちの意見を盛り込ませる。  
イ、共修実現に有効な移行措置を実施させる。

ウ、教員の増員や家庭科室の新設・充実など、条件整備を推進させる。  
エ、女子差別撤廃条約の精神を盛り込んだ教員の研修を進めさせる。

#### 二、現場にむけて

1. 私たちの考える家庭科共修を実現するためのパンフレットを作る。
  2. 家庭科及び各教科の現場教師との交流、情報の収集、提供を積極的に進める。
  3. 文部省や教育委員会が主催する研究会等に積極的に参加してアピールする。
- 三、世論にむけて
1. 他団体と共催してイベントを行う。
  2. リーフレットを作り、積極的に配布し理解者を広げる。
  3. パンフレット等を積極的に販売する。
  4. 諸団体の集会にできるだけ参加し、アピールする。
  5. マスコミに積極的に働きかける。

## 運動方針についての討論から

- 四、組織の拡大と強化のために
1. 会員の拡大を積極的に行う。
  2. 世話人会を定期的に開き、記録を残す。
  3. 会報を年4回刊行することを継続し、情報の交換に努める。

「もっとポイントをはっきりさせた、刺激的な運動方針にした方がいいのではないか」という意見が最初に出了ましたが、年度前半は新しいパンフ、リーフと文部省に対する質問状をつくること、後半はイベント、というようにポイントをはっきりする、ということできえました。

次に「反動的な動きが強まっていることを考えた上での運動にしなければいけない」ということが話題になりました。初任者研修などの制度が間もなく国会で決まろうとしている、こうした動きをこのままにしておいては家庭科共修どころではなく、葦山高校のような問題もその流れの中から出て来ているのではないかと話し合いました。討論の結果「教育全般の反動的な動きをきびしく警戒しながら」ということばを入れることにしました。

（まとめ 梶谷 典子）

◆ 蕨山高校の問題（6、7ページ参照）  
 会として蕨山高校長へ申し入れ書、静岡県教委へ要望書を送ったこと、そのコピーをマスコミへ送ったことの報告のあと、他団体でも抗議をしていること、NHKのおはようジャーナルでも取り上げられたことや、静岡県の教育界の古い体質が話題になりました。今後こうしたことが起らないようにするためにあちこちでしつこく声を上げて行こう、国会への働きかけも続けて行こう、さわぐほど効果がある、と話し合いました。

◆ 国や自治体の動きについて次のような情報と意見がありました。

- ・ 国会に望ましくない教育関係の法案が出ている。初任者研修、ポスト臨教審、新テスト、教委の権限強化等々。それでいて家庭科共修の予算は全く考えられていない。
- ・ 文部省は指導要領についての情報をできるだけ流さないようにしているようだ。
- ・ 家教連の夏の研究会はこれまで自治体の後援を受けて開かれることが多かったが、今年の新潟県教委から断られた。「会長や事務局長に責任ある立場の人がいない」「教委の方

情報交換から

針に反する考え方がある」という理由だった。

- ・ 埼玉県教委で家庭科共修についてアンケート調査を行ったが、保護者の多くが共修に賛成だった。（8ページ参照）
- ・ 東京都議会厚生文教委員会で三井マリ子議員が家庭科共修について質問したが、東京都行動計画では共修がはっきりうたわれていないにもかかわらず、具体的には何もすすんでいないし、行政側の一人一人が男女平等について何も知らないということがわかった。（やりとりの一部は8、9ページに）
- ・ 都の指導主事から文部省へという道ができってしまったようだ、これは問題だ。
- ・ 各自自治体とも婦人問題を担当しているところはあるが、それ以外の部門では男女平等について全然わかっていない。

◆ 民間行動計画について

今つくっている民間行動計画に「私立校にも積極的に共修にするように求める」という項目を入れることを提案したところ、賛成でない団体もあって、「別学校でも役割分担意識をなくすように」という意味のことを入れることになりました。むずかしいものだが、でも共学はすすめるべき、と話し合いました。

（まとめ 梶谷 典子）

	繰り越し金	売り上げ	利 息	合 計
家庭科、なぜ女だけ！	287,808	28,900	5,891	322,599
家庭科、男子にも！	22,348	6,000	521	28,869
技術・家庭科の男女共学をどうすすめるか	27,331	900	1,005	29,236
こうしてひらいた共修への道——家庭一般を中心に——	19,200	25,500	492	45,192
すすむ男女共修——いま技術・家庭科で——	16,200	8,400	445	25,045
家庭科なぜ共修？どんな共修？	152,824	81,850	3,764	238,438
家庭一般の男女共修をどうすすめるか	129,020	900	4,497	134,417
	654,731	152,450	16,615	823,796

パンフレット会計

<1988年度予算>

<1987年度決算>

単位：円

収 入 の 部		収 入 の 部			
会 費			1987年度 入 金	1987年度 予 算	●予算以下 △〃オーバー
3,500×350人	1,225,000	前年度繰越金	- 112,104	- 112,104	
87年度繰越金	167,602	会 費	1,178,000	1,400,000	● 237,500
計	1,392,602	カ ン パ	51,000		△ 41,000
		そ の 他 (集会参加費など)	34,620		△ 30,120
		計	1,146,516	1,287,896	● 141,380
支 出 の 部		支 出 の 部			
			1987年度 支 出	1987年度 予 算	●予算以下 △〃オーバー
① 集 会	76,360	① 集 会	41,160	114,550	● 73,390
会 場 費	15,180×2	会 場 費	39,580	44,550	● 4,970
・案内状	6,000	案 内 状	1,580	10,000	● 8,420
謝 礼	40,000	謝 礼	0	60,000	● 60,000
② イ ベ ント	60,000	② 会 報	427,435	575,600	● 148,165
③ 会 報	575,600	印 刷 費	249,505	400,000	● 150,495
印 刷 費	100,000×4	送 料	172,640	168,000	△ 4,640
送 料	70×600×4	運 搬 費	5,290	7,600	● 2,310
運 搬 費	1,900×4	7,600			
④ 維 持 費	341,600	④ 分 担 金	49,000	50,000	● 1,000
事務所代	6,800×12	⑤ 通 信 費	77,879	60,000	△ 17,879
アルバイト代	20,000×12+20,000	⑥ 雑 費	25,540	70,000	● 44,460
260,000		(封筒、コピー)			
⑤ 分 担 金	50,000	⑦ 予 備 費	21,300	76,146	● 54,846
⑥ 通 信 費	60,000	(声 明 文)			
⑦ 雑 費	100,000	計	983,914	1,287,896	● 303,982
⑧ リーフレット	80,000				
⑨ 予 備 費	49,072				
計	1,392,602				

翌年度繰越金

報告・提案 馬場 洋子

1,151,516 - 983,914 = 167,602

## **葦山高校の 入学差別に抗議**

静岡県葦山高校の理数科で、女子がふえ  
ると家庭科をやらなければならないとい  
う理由で女子に対する入学差別が行われ  
たという新聞記事が出たあと、いくつも  
の団体が抗議の声を上げました。会  
でも、三月末に葦山高校長あてに申し入れ書  
を、静岡県教委教育長あてに要望書を送  
りました。

四月十三日にはNHKのおはようジャ  
ーナルでこの問題が取り上げられ、会  
員の坂本なえさんが出演しました。

### **送付した抗議文**

〔一〕平川忠義校長に対する申し入れ書（要  
旨）

昨年末の教課審答申は、小・中・高の「家  
庭」「技術・家庭」の男女共通必修を決定しま  
した。こうした情勢に背をむけ、貴校では理  
数科の選抜に際して、事前審査の際、女子の  
志願者に対して差別的な制限を行ったことを  
知り、わたしたちは大きな驚きと憤りを感じ

ております。しかもその理由に「家庭科の設  
置」「理数科独特のカリキュラムの崩れ」が  
あげられているとき、受験過熱に偏向した  
教育観と、時代に逆行した女子差別の根深さ  
にショックを受けております。

国会は一九八六年六月「女子差別撤廃条  
約」を批准し、男女平等を国政の基本にすえ、  
あらゆる分野に男女が共同参加することを国  
際的に公約し「男は仕事、女は家庭」の克服  
を教育の重点目標にかかげています。

従って、理数科への入学や大学進学はむし  
ろ女性に、家庭に関する教育はむしろ男性に  
機会・門戸を拡大すべきであって、貴校の方  
針はそれに反するものです。

一九七五年からとりくまれた国際婦人年の  
「平等・開発・平和」の運動は、地球上の婦  
人たちの共通した願いであり、歴史的な命  
題です。

教育の現場にある貴校ならびに全国の教師、  
次代に生きる青年たちを育てる立場にいる者  
は、この歴史的な使命を果す期待を担ってお  
ります。わたしたちは、貴校の選抜における  
男女差別に強く抗議するとともに、今後再び  
こうしたことが起らぬよう、また男女平等の  
実現にむけて教育方針が見直されることを強  
く求めるものです。

〔二〕静岡県教育委員会芝健教育長にあてた  
要望書（要旨）

まえがき（略）

こうした国の内外の動きにもかかわらず、  
県立葦山高校では、理数科の入学選抜に際し  
て、女子の志願者に対し差別的な制限を行う  
という憲法理念に反する取扱いを行い、貴会  
もそれを許容したことは、国際信義をふみに  
じるものであり、さらに政府、国会の方針に  
も反するものです。

固室的な役割分担にこだわらず、理数科を  
志望した女子の積極的な意向にこたえ、教育  
機会を優先的に保障してこそ、世界ならびに  
国内行動計画にそい、女子の能力開発をすす  
める対応です。

わたしたちは静岡県下の他の理数科もふく  
めて、再びこうした不祥事が発生することの  
ないよう貴委員会の行政指導の改善を強く要  
望いたします。

人口の半を占める女性の潜在能力を開発す  
ることは世界平和への途であり、そのために  
はあらゆる分野での男女平等が貫徹されねば  
なりません。

差別撤廃は地球規模での人類史的課題であ  
るとの認識に立って教育行政を推進されるよ  
う強く要求いたします。また、教育関係者の

全員が「女子差別撤廃条約」を研修されるこ  
とを希望いたします。

一九八八、三、三〇

家庭科の男女共修をすすめる会

以上の文書は、各新聞社へも同時に送付し  
ました。（文責は和田典子）

NHK「おはようジャーナル」

—女子だけは狭き門？—

静岡高校入試をめぐって—

に出て

坂本なえ

「男子がこれから伸びるということは、よ  
くわかっています。」

「女子は伸びないでしょ、高校に入ると。」  
入試差別が明らかになった静岡・葦山高校  
の合格発表会場で、女子生徒やその母親が口  
々に言う。だから入試でハンディをつけられ  
ても仕方ない、というわけだ。

「女子が増えると家庭科をやらねばならな  
いから」という理由で、極めて少数に抑え  
られた理数科志望の女子生徒たち。女子のみ  
必修という差別に加え、それを理由に入学の  
門戸を閉ざされたのである。

画面は次々と事態をえぐっていく。

葦山高校の女子制限は、近くの進学校に理  
数科が設置された翌年から始められたこと。

すなわち入試競争への危機感から生じたこと。  
事前選抜・男女差別は県内8校の理数科す  
べてで行なわれていたこと。

それだけではない。男女別の定員はないは  
ずの普通高校で、女子を制限するための「ウ  
ラ定員」が公然と実施されていること。例え  
ば定員約四百人の静岡高校には、男3、女1  
というワケが高校から指定されているという  
そして中学の教師はワケに合わせた合格ライ  
ンを算出し、男女生徒に、進路指導する。

数字に明らかなこの男女差別を生徒に納得  
させるには、「女子は伸びないから」と教えて  
むしかあるまい。中高一体となって作り上げ  
た差別入試のシステムに慄然とする。

そしてこれは静岡だけの問題ではない。画  
面は甲子園行きたさに40人の女子を門前払い  
にした秋田の例、さらに公然と男女別定員ワ  
ケを温存させている東京へと飛ぶ。旧男子校  
に今も残る3対1の男子偏重。静岡と同じだ。

全国をおおう入試差別。葦山高は顕著な一  
例にすぎない。だがそこで、男女差別と進学  
競争が家庭科の排除という事実で表れたのは  
なんと象徴的だ。

つくづくやりきれない事件である。しかし、

## **都立高校の募集定員を 男女平等に**

男女平等に

教育上の男女平等を求める運動がまたひと  
つ生まれました。

東京都立高校の定員は男女別枠になってい  
ます。男女同数のところもありますが、もと  
男子校のいわゆる名門校では男女の定員差が  
大きく、六十三年度の募集枠は全日制普通科  
全体で男子は三万一千四百三十四人、女子は  
二万八千五百八十二人になっています。女子  
は男子より二千八百五十二人少ないのです。こ  
のことは以前から男女差別だと指摘されてい  
ましたが、入学定員の男女平等化を求めよう  
という新しい運動が始まりました。メンバー  
は都議会の三井マリ子議員（社）や、区立中  
や先生たちで、名前は「東京都の男女平等教  
育を実現する連絡会」。五月二十日にスター  
トしました。（梶谷 典子）

## 多くの保護者は、 「男子にも家庭科を」 ――埼玉県の調査――

埼玉県教育課程改善委員会「高等学校家庭科の男子履修」についての調査研究部会から、この三月、第三次報告が出されました。

この調査は、高等学校家庭科の男子履修について、昭和60年度から始められ、第一年度は、家庭科の学習内容に対する生徒の意識を主題として調査、第二年度は、公立高校の家庭科担当教員全員に対して意見を聞き、今回は、高校第一学年生徒の保護者に対して、家庭科を履修するねらい、学習内容、学習形態等について実施されました。

県内16校729名の保護者対象で、回答率96.9%、その内66%が母親、30%が父親でした。

男子生徒が、家庭科を学習するねらいについて、「家族が協力し合う家庭生活のあり方を学ぶ」が96%と高い数字を示し、「家庭生活に必要な基礎・基本を体得することが、重要である」という結果がでています。

学習内容では、「衣生活」「食生活」「住生活」「家庭生活と家族」「保育」「その他の分

野」について調査し、「食生活」「家庭生活と家族」「保育」において、健康管理と食生活、家庭生活の意義と家族関係、両親の役割と責任等、90%近く大切であると答えています。全般的に、多くの保護者が、家庭科の必要性を認めています。

今後の課題として、男子の家庭科履修に対する保護者、関係行政機関等の理解を求め、家庭科担当教員の増員と研修の充実、施設、設備、備品充実のための予算措置を早急に検討すべきだとまとめています。

この報告を読み、保護者の多くは、人間としての自立した生き方、家庭生活のあり方を学ばせたいと考えており、男子にも履修してほしいと願っていることがわかりました。これからは、内容をどう作っていくか、私たちが願う家庭科共修までまだまだ道は近くはないようですが、実現されるまで運動を続ける必要があると思います。(羽賀 紀子)

## 生活科の内容

「内外教育」から

四月十二日文部省は、一九九〇年四月から理科、社会に代わって小学校一・二年に新設

ということですか。

○小川指導部長 家庭というものの経営といいますが、家庭を構成していく具体的な中身としてとらえますと、まず家庭生活そのものがございまして、その中には当然衣生活、食生活、住生活、そして保育等さまざまな内容があるわけございまして、それぞれの中身について男女がその特性を互いに認め合い、協力し合って形成していく、そういうことが必要であるということから、家庭という学科を学ぶことが必要であろうと考えております。

(三月二十二日の委員会速記録から)

指導部長の答はあんまりはつきりしていませんが、印象的なのは「男女の特性」ということば。この前後にもくり返して使っていて「男女の役割の変更」など念頭にないようです。これから追及しなければ。

(梶谷 典子)

## 高校長協会 家庭部会報より

62年度総会及び研究協議会(11月6・7日)での文部省関係者や参加校長の発言から何点

かの報告をします。

(1)「生活技術」に関して

内容の電気は、中学の技術・家庭科の上に乗るものではない。家庭電気にかかわる電子機器の扱い、選び方である。又情報処理、園芸、電気の内容が入ることから、免許法改正がからんでくる。(津止教科調査官)

(2)情報処理教育に関して

「生活技術」の内容の情報処理は、コンピュータを教具として情報を処理するということであり、どうしても指導が困難な場合は外部講師で対応してもよい。

情報処理教育に関する研修制度が予算化され、商業、工業、水産、農業、家庭・看護の教員を対称とし、63年度から各都道府県代表が中央研究をうけ、各地で普及する形をとる。又施設に関しては62年度20億、63年度30億が財務課の予算に、職業教育課では五ヶ年計画の第一次として62年度7億が予算措置されている。又62年夏には、日本電気でコンピュータの講習を文部省の実技講習として行った。63年度も実施の予定。(津止教科調査官)

(3)「生活一般」の2単位分の代替について  
文部省としては、体験や実践を通して生活の能力を育てる教科は家庭科以外にないと自負し、そのためには4単位をと考えているが、

する「生活科」の具体的指導法の参考例をまとめて研究推進校五十一校に示した。

第一学年

- ①学校めぐりをしよう ②公園へ行こう ③生き物を育てよう ④秋を探そう ⑤家族を紹介しよう ⑥遊ぶものを作ろう ⑦もうすぐ二年生

第二学年

- ①わたしの町を調べよう ②生き物を育てよう ③雨の日を楽しく過ごそう ④植物を育てよう ⑤おもちゃ大会をしよう ⑦子供郵便局を開こう ⑧冬の暮らしを調べよう ⑨わたしの記録を作ろう

それぞれこの活動例にそって、この活動で育てたいこと、考えられる具体的活動例、活動展開において留意したいこと、が記されている。学習指導要領の素案ともいえるものであるが、ここでは、小学校家庭との関連が深いと考えられる。(大西 歩)

## お役人はやっぱり 特性論者?

東京都議会  
厚生文教委員会から

○三井委員 家庭科の科目を共修にするとは

男子には急に4単位は無理という議論の中から前半、後半2単位の「生活一般」が生まれた。代替に関するなお書きに「当分の間」とされたことは、後半2単位を設けないといかないということである。又代替科目は普通科の男子は「体育」、男子だけの工業科、農業科は、各々「工業基礎」、「農業基礎」などが考えられる。(高部視学官)

(4)施設・設備、教員の研修について

省内関係官として大いに努力するつもりである。本当の意味で技術・技能を身につけさせるには、施設・設備の問題も人的な問題も解決し、充実させる必要があると思っている。男子だけの学校にも、調理室と生活技術室の二つ位は何とかしたいと思っている。(高部視学官)

(5)校長による各地の状況

△石川▽69年度実施にむけ、県高長会では「家庭科教育推進委員会(準備委員会)」を設置。

△愛知▽条件整備に関連して、情報処理技術をもっている人を採用したい。愛知の大学には、男子が家庭科の免許をとれる科がある。電気、機械等を考えると男子の家庭科教員が必要。(芦谷 薫)

# 国際婦人年日本大会の 決議を実施するための

## 連絡会報告

和田 典子

4月26日、年次総会にあたる全体会がもたれ、以下の報告と協議を行ないました。

1. 一九八七年度会計報告  
担当の藤田貴子さん(WILL)から報告があり、これを承認しました。

2. 年間学習計画について  
現在、小委員会にわかれて作成中の「民間行動計画」の作業をすすめる過程で、連絡会としての意志統一をはかる上で、学習会をひらくことが求められています。(EX高令化社会と女性、売買取、アパルトヘイト、開発問題、女性学の動向、派遣労働など)

これら総てを取上げるとは日程上無理なので、当面している売買取問題、開発問題から始め、各分野からの学習提案がそろった段階で検討し、順次実施することになりました。

3. 日本大会記録の編集、発行について

(内容) 一九七五年国際婦人年以来の三つの日本大会をはじめ、各種集会、申し入れなどを集録し、資料的価値のあるものにした。(規格など) A5版・四〇〇頁、二〇〇〇部、単価二〇〇〇円、十一月上旬発行  
(編集・製作) 編集は連絡会ですすめますが、製作は市川記念会に依託します。

4. 民間行動計画案——教育・マスメディア分野の討議  
和田典子の提案を検討し、意見を加えてこの分野については承認されました。(教課審の答申をふまえて、多様化、情報化、国際化や道徳教育のあり方についての提言を補足しました)

5. パートタイム労働対策についてのヒアリング  
労働省婦人局の岩田喜美枝担当官より、昨年10月に出された、今後のパートタイム労働対策のあり方についての報告書に基いた説明をききました。報告のなかでパートは「基幹労働力の一つ」と位置づけられ、新たな法制定が提言されており、五月にはそのための専門家会議も発足します。連絡会としては検討の上、必要な申し入れを行う予定です。

6. 「開発と女性に関するプログラム」のヒアリング  
国連工業開発機構(UNIDO、ウィーン)の藤野あゆみ氏より、標記についての話をききました。工業開発をつうじて、男女が平等に利益を受けるにはどうするか、との点からとかく大型プロジェクトでは見落され勝ちな草の根の女性たちへの援助を重視したとりくみをしているとの報告でした。

7. その他  
①四月から新しく総理府婦人問題担当室長になられた藤井紀代子参事官から着任のあいさつがありました。  
②五月末、西独より婦人議員を中心とした国会議員団が来日、青少年、家庭、福祉、保健婦人問題などの視察が予定されていますので連絡会として交流することを検討しています。

③婦人問題に関する意見文——西暦二〇〇〇年に向けての私のメッセージ——募集  
婦人問題企画推進本部及び都道府県・指定都市の主催による意見文募集が実施中です。メッセージの対象は自由、字数は一〇〇〇字程度、期間は昭和63年5月1日から6月30日まで。問い合わせは主催者まで

## いろいろな集会のおしらせ

★第23回家庭科教育研究者連盟夏季研究集会  
いよいよ秋には学習指導要領が告示されます。今大会では臨教審路線をめぐる情勢を明らかにして、国が何を意図して、どういう教育を進めようとしているのかを知り、我々のめざす家庭科教育について実践をだして話します。

とき 7月27・28・29日  
会場 新潟駅前徒歩10分位  
ミナミプラザホテル  
テーマ  
いよいよ家庭科の男女共学必修  
——教育課程審議会答申の検討——  
記念講演 「臨教審・教課審答申と日本の教育」 東京大学 堀尾輝久  
参加費 五〇〇〇円(学生三〇〇〇円)  
詳細は事務局一〇四八八・三二・七三三三

★第34回日本母親大会  
・7月30日 分科会 岩手大学ほか  
・7月31日 全体会 岩手産業文化会館  
・会費では「男女平等教育・家庭科共修のめんどい」の分科会を担当します。

★We夏のフォーラム、今年は大阪です

大阪の北、緑濃い能勢の郷で「ゆたかさを紡ぐ」人々が人と向きあうところで「We」にWeのフォーラムを開きます。  
八月六日から八日まで。宮迫千鶴さんの講演、教育をめぐるシンポジウムの他、八つの分科会、さをり織りやWe夏祭り、原発の映画など多彩な内容です。お子さん連れでぜひどうぞ。お問い合わせは、ウイ書房(03・326・1380)まで。案内をお送りします。

★日教組 自主編成講座「家庭科部会」

教師の力量を高めるための自主編成研究講座が左の日程で開かれます。分科会は家庭科のほか、社会、国語の三教科と青年講座の四つです。  
とき 8月24日14時から27日正午まで  
ところ 蓼科温泉ジャパンビラクラブ

全体会と小・中・高別小分科会で報告と討議が行なわれます。多数の参加が期待されます。教課審答申批判とわたしたちの課題、自主編成をどうすすめるか、などがテーマです。

★女性民教審の集会

・9月23日(金) 秋分の日  
場所 主婦会館

・テーマ 臨教審答申から1年、今、教育は?

・内容 一部「子どもたちは救われたか?」民教審メンバーや、親たち、先生たちが、子どもたちの現状について交々語る交流会。

二部、シンポジウム

・臨教審と親たち

・依頼子、永畑道子、半田たつ子はか

・ゲスト2名、司会樋口恵子

(お問い合わせは、左の女性民教審へ手紙か電話で)

◇

・春号にご報告した女性民教審の教課審答申批判集会の記録がパンフになりました。家庭科についても、半田たつ子さんがパッチリ批判しています。

・なぜ社会科をなくすの?

・定価400円、送料1冊200円

・50冊以上は二割引。送料無料。

・申込みは、中野弥生町4の35の1

・依頼子方 女性による民間教育審議会宛に、葉書でどうぞ。電話03-384-3216

## 世話人会報告

△三月二十七日▽

連絡会、母親大会についての報告のあと、次のことを検討、決定しました。

◇都の教育行政についてきき出すため、三井マリ子議員（社）にヒアリングの場をつくってもらうこと。（13ページ参照）

◇総会について

87年度総括案、88年度運動方針案、当日の担務など。

◇蕨山高校の入学差別問題について。

蕨山高校長と静岡県教委教育長あてに抗議の文書を送ること。よその地域や学校でも同じような例があると思われるので、国会等でも問題にしようよう働きかけること。（657ページ参照）

◇リーフレットについて。

体裁、内容、印刷部数など。

（梶谷 典子）

△4月16日▽

総会のあと、引続き世話人会。出席12名。連絡・報告

## グループからの報告

世話人は二・二〇集会のあと、公開質問状パンフレット、リーフレットの三つのグループに分れて動いています。リーフレットはすでに完成、パンフレットも間もなくでき上ります。公開質問状グループは文部省あての質問状作成に先立って、東京都や国会に働きかけています。

### 公開質問状グループ

#### 東京都の男女平等教育推進を行政に聞く会

5月16日

主催 三井マリ子（東京都議）

今回は家庭科の男女共修実現に向けて、東京都の現状と今後のとりくみを、教育庁関係者から聞くことを目的として開かれたが、この種の問答に付きものすれちがいが、またもや我々出席者16人をイライラさせた。

教育庁側出席者は次の3人。宇津木順一主任指導主事（安全教育、男女平等教育担当）・井口茂主任指導主事（高校教育指導課勤務青

①5月16日、三井マリ子さんが、東京都家庭科指導主事に今後の都の家庭科についてヒアリングを行う予定。（菅谷・石川・和田さんが出席）

②5月17日、労働省主催「婦人週間40周年記念全国大会が日比谷公会堂で開かれる（10時～16時）和田さん出席の予定。

③リーフレット、家庭科は共修にならない!?、がまもなくでき上がる（二万枚）ので、各方面への配布計画

。討議

④半田さんより出された、新しいパンフの案をめぐって、内容の検討と執筆分担など。

⑤会報夏号の内容と執筆分担など。

△五月二十八日▽

（駒野 陽子）

世話人会では、当分の間、運動を三つに分担して進めていくことになっていて、今回はそれぞれの報告から。

A、行政に聞く会の報告

B、リーフレット完成。

C、パンフレットは原稿が集まり、編集作業中。このパンフレットは、多勢の人に利用してもらいたいので、世話人が積極的に宣伝、販売していく。新聞社等マス

コミにも宣伝する。

次に、他団体と共催によるイベントを企画するかどうかの話し合い。何を誰に訴える会にするかという点からいろいろ意見が出て、今、一番期待されている家庭科の先生方の意気を高めるような内容にしたいとか、先生以外の人たちに、私たちの運動を知らせるためにめだつことをやろうとか、多々出された。前回好評だった各県交流会を、春休みあたりに持ってはどうかという声が多かったが、次回も検討することになった。

（磯部 幸江）

### “家庭科は共修にならない!?”のリーフ一〇〇枚を活用

5月17日の「婦人週間40周年記念全国会議」（労働省主催）が日比谷公会堂を満席にして開かれ「会」から持田、和田が参加しました。

出来たばかりの前記リーフを入口に立って約一〇〇〇人の参加者に手渡し、午後のフォーラムでは、リーフの内容についてフロアから訴えましたが、かなりの手応えが得られました。（和田 典子）

少年教育担当）・高橋ヨシ子指導主事（家庭科担当）。

まず庁側からの説明で、都は婦人年の都の行動計画（昭53）及び新行動計画（昭58）に添って、男女平等教育の推進に、計画的に取り組んできたという、教師の男女平等観を作ることがまず第一であると思うから、家庭一般、特別活動、現代社会などの教科の教師用資料を作成し配布するなど努力をしてきた。

特に昭54には家庭科を男子が履修するにふさわしい教科として位置づけている。又、区市教委の主事と担当者による推進委員会を中心に、講演会や分科会などの活動をし、会の充実を図っている。以上のような件について細かい報告があり、続いて高橋氏による新家庭科の指導・実施についての説明となったが、高校については昭64・4に文部省が学習指導要領の告示をしてからの対応であり、今は何も云えないし、中学については担当外であるとのこと。

聞く会側からは、資料集が各校に二・三部づつ配布されているが有効に使われているとは思われない。資料の内容はいいがそれが浸透していない。活用方法はないのか。又、推進委員会では何をやっているのか、資料活用事例研究などしているのか、成果はどうな

のか、との質問をした。これに対して、努力はしている、これは認めて欲しいという。

学習指導要領の告示後でないと云えないというのでは、都の独自性というのはどうなるのかとの問いに、これまでも独自性は重視してきた、昭62年には男女で学ぶ家庭一般を研究員がまとめているし、そのあり方の研究も実情をふまえてしている、という。

昭65・68年移行措置、69年学年進行であるが、教員数の確保の年次計画、予算措置についてはどうなっているのかに対し、担当がう、聞いていないとのこと。

実務教科は手がかかる、別枠で講師をとることができると、とっていきつものかとの問いには、全体とすることがあるので、とのこと。都における中学の選択、技・家とかかわって履修のしかたが多様化しているが高校ではどう受けとめるのか、共学と男女同一内容はイコールだが都の方針をききたい等については担当外であるから答える立場にないという。それではということ、お伝えいただきました。

く、要望を出したが、特に次の点を強調。家庭科を大切だといっていることと施設がないことは矛盾している。施設の保障がないと共学が実質的にできない。男女共学になったときの物理的状況をふまえて計画的にやって



欲しい。施設関係へ伝えていただきたい。

宇津木主任も井口主任も、教師の男女平等観が推進されないと家庭科の男女共修はすすまないというが、教師の平等観がどうであれ、昭69年からは男女共修で家庭科が始まるのである。研究や資料作りも結構であるが、それらが活かされるよう、他の部署の担当者とも連絡を密にしていきたい。学習指導要領告示後の都の教育課程編成要領に、男女共修家庭科の現場経験もあるという高橋主事の手腕をみたい。

(石川 由紀)

### もうすぐできます新パンフ

#### 「スタート! 新しい家庭科」

運動を始めて十五年、「会」では、八冊目のパンフを作ります。教課審の答申に「今回から男子も必修」と書かせ、中学校は五年先高校は六年先から、共修が実現します。運動の成果です。とはいえ、家庭科の先生方の顔も冴えないし、私たちももう一つ元気が出ません。それは、せっかく男女共修をかちとって、私たちが願った内容のものではないからです。

この期に及んで、もっと運動を盛り上げよ

う。制度としての男女共修を実現させたのだから、教育内容をこちらが願うものにしてしまおう。「上」から降りてくるものを黙って待つのではなくて、一日も早く、私たちが願っていた男女共修の家庭科をこちらからつくってしまおう。五年先、六年先といわず、できる態勢を整えて実現してしまおう。

そのために、家庭科の先生方に最前列でがんばっていただかなくては。同僚を説得し、職員会議で議論を尽くしていただかなくては。せめて「会」では、家庭科の先生方の強力な助っ人として、新しいパンフを作ろう!

四月の総会のあと話し合って、すぐ手分けして書き始めました。A5判32頁のハンディなパンフながら、中身はずっしり。

I どのような 新教育課程での家庭科

II こうして 共修はきまった

III 生かされている? 女子差別撤廃条約

IV スタートさせよう 新しい家庭科

V 利用して下さい この資料

深いグリーン、前回の黄色いパンフと合わせた時、色あいも内容も、いっそうひき立つようにと願っています。予価三百円、七月中旬には完成して、夏の様々な集会に活用していただきたいと願っています。事務局まで、どしどしお申し込み下さい。(半田たつ子)

### リーフレットができました

リーフレット「家庭科は共修にならない!?」ができあがりました。

教課審の答申で家庭科が男女共に学ぶ方向は決まったものの、「あとは現場の問題」と、もう何も努力しないいつもの文部省担当官や、今だなお「男女の特性は生かさなければ」と、男女に違った学習をさせるつもり校長がいるかぎり、会としてもこのままジツとしてはいられません。そんなことから、いろいろな人たちに、家庭科のことをより知ってもらおうと、このリーフレットを作ることになりました。今度の教育課程で中学、高校の家庭科がどうなるか、どんな問題点があるか、などを簡潔に説明しています。運動は終わってはいません。リーフレットをきっかけに話し合いの場を作っていきましょう。リーフレットは無料です。お申し込み下さればお送りいたします。(馬場 洋子)

リーフレットはこの会報に  
一部同封します